

会員の広場



ふーちゃんとしょうちゃん

〔老夫婦の衝動買い その後〕

深瀬 拡（東京）

またしても、猫の話で恐縮だが、この春、わが家に生後2か月のしょうちゃんが加わった。2匹になれば、じゃれあって、いいものだよ、と言う友人の甘い言葉に何気なくのつたのが、ことの始まりで、ふと気がつけば、終活どころか身辺やけに忙しくなってきた。

なつたら、じゃれあつてくれるのだろうか？先輩ふーちゃんはいつの間にか、堂々の大人の体型になり、その後食事制限を課されて、肥満を克服。体重3・92kg、前月比0・1kg減と約4kg弱をキープしている。

しょうちゃんは1・14kgで、手のひらにの軽量ながら、近頃めつきり力をつけてきて、暴れまわる。ふーちゃんを見れば、2本足で立ち上がって、ボクサーのように、両手を振り回す。ちなみに、しょうちゃんの名前はブリテイツシュオートヘアーのシュオートから、シヨーちゃんとなった。命名にあたっては、活躍中の夢ある大谷翔平のイメージが隠されている。

ところで、小生これまでペットに執着したことは一度もなかった。むしろ無関心な方だ

まず先輩の2才半のふーちゃんだが、最初からの静かな雌猫で、ものに動ぜず子猫の時から黙して大物然としていた。注射をされようが何されようが、どっしりと落ちついたものだった。同じブリテイツシュ・シュオートヘアながら、今年3月生まれの弟分のしょうちゃんは今や6か月の男の子、家中走り回り、腹がへると泣き叫ぶし、やんちゃそのもの。ちよっと目を離すと台所の流しに飛び乗ってマヨネーズの残った皿はなめ回すし、テーブルでちゃぶ台返しも時々やらかす。挙げ句ふーちゃんと目が会うと、背を丸めて、唸り声をたて、女子高生クラスのふーちゃんを威嚇する。一説には弱者の強がりともとれるが、ともかく見かねて、両者を引き離す。以来互いに顔を会わせないように、気を使う。いつに

つた。それが今や家族同然、必死になって面倒をみている。瓢箪から駒というのが、人生の終わり頃にこんな生活が待っているとは予想もしなかった。なんとしても可愛いからどうしようもない。ふーちゃん、しょうちゃんは家の中心的存在になってしまった。朝起きると、2匹の食事にとりかかるところから始まる。ふーちゃんにはこれまでと同じ態度で接し、愛情のロスを感じさせないように気を配り、今まで以上に時間をさいて遊んでやる努力をおしまない。シヨーちゃんはちびっこで、それだけで可愛い。ゆえに愛情のバランスが難しい。2匹がじゃれあって、勝手に遊んでくれる日はいつくるのだろうか。人生変われば変わるものだ。気がつけば、2匹の猫中心に、のんびりした日々が続いている。